

□海外文献紹介□

大腸癌—リンパ節転移に対する評価

Colorectal adenocarcinoma: Quality of the assessment of lymph node metastasis: *Hernanz F, Revuelta S, et al* (Dis Colon Rectum 37: 373-377, 1994)

大腸癌の Dukes 分類において Dukes B と Dukes C を区別することは治療効果を決定するうえで重要である。今回、リンパ節転移の有無を組織学的に評価するために最小限度必要なリンパ節の個数を検討した。

1989 年 1 月から 1990 年 12 月までカンタブリア大腸癌登録の 361 症例を対象とした。このうち Dukes B と Dukes C は 193 症例。Dukes B は

118 症例 (61%), Dukes C は 75 症例 (39%)。年齢は各々平均 69.6 歳 (38~89 歳), 68.3 歳 (37~95 歳)。性別は各々男性 74 人 (62.7%), 34 人 (45.3%)。摘出したリンパ節は各々 1 症例で平均 11.0 個 (1~36 個), 11.4 個 (2~38 個)。このうちリンパ節転移陽性であったのは平均 3.3 個 (1~36 個)。部位別では右側結腸が 47 症例 (24.4%), うち Dukes B が 30 例 (63.8%), Dukes C が 17 例 (36.2%) であった。左側結腸が 45 症例 (23.3%), Dukes B が 30 例 (66.7%), Dukes C が 15 例 (33.3%)。直腸が 87 症例 (45.1%), Dukes B が 50 例 (57.5%), Dukes C が 37 例 (42.5%) であった。多発性が 14 例 (7.3%) で, Dukes B が 8 例 (57.1%), Dukes C が 6 例 (42.9%) であった。

1 症例で少なくとも 1 個のリンパ節が転移陽性 (Dukes C) となる確率を曲線で表すと, 6 個で 95%, 10 個で 99% 陽性となる。1 症例で摘出したリンパ節の個数は当施設では 11.0 ± 7.2 個で, スコットらの例では 6.2 ± 5.1 個。Dukes C と診断した個数は各々 3.3 ± 4.7 個, 2.7 ± 2.1 個と当施設のほうが摘出した個数は多かった。Dukes B と診断した例では, 6 個以上摘出した症例は 95 例で全体の 80.5%, 10 個以上は 60 例で 50.8% を占めた。

以上のことから, 1 症例に 6 個のリンパ節を摘出すれば 95% の確率で Dukes B と Dukes C の区別はつけられる。

(愛知県がんセンター消化器内科

小野 博美 抄)